

番号・課題名	5 TOKYO X の肉質改善 ～ビタミンE・ゴマ粕給与試験～
所属・氏名	環境畜産部 ○渡辺 彬 三宅分場 鈴木亜由美

〔目的〕

トウキョウ X 豚飼育農家では、高カロリーの餌に切り替えて以降、肉色の濃いものや締まりのないもの等が以前より多くみられ、商品価値が低下するとして、試験での解決策が求められた。当场としては、抗酸化機能があるとして知られているビタミン E とゴマ粕給与による試験を設定し、農家の経営に直接影響を及ぼす課題として位置づけ、その究明を図ることとした。

〔方法〕

1. トウキョウ X 豚を供試し、TDN73%と高カロリーの飼料を給与し、一区 5 頭（去勢 3、雌 2）で 4 区に分け計 20 頭とした。
2. 各試験区は、A 区→ビタミン E 添加区、B 区→ゴマ粕添加区、C 区→ビタミン E 添加＋ゴマ粕添加区、D 区→対照区とし、A 区はビタミン E100IU、B 区はゴマ粕 8%、C 区は A 区、B 区の 1/2 量をそれぞれ添加した。
3. 試験豚は、平均体重 65.6Kg で開始し、110Kg で屠殺した。屠殺月日は、8 月 8 日～9 月 3 日で比較的暑い時期だった。
4. 屠殺後一日間 4℃で冷蔵し、翌日屠体調査、枝肉のしまり、ドリップロス、PCS・FCS を検査した。
5. 肉色の変化については、胸最長筋・僧帽筋・頸刺筋を色差計で測定した。

〔結果〕

1. 発育については、ゴマ粕を添加した B、C 区でやや劣ったが、逆に飼料要求率では低い傾向を示した。（表 1）
2. 背脂肪の厚さについては、区間の差が認められなかった（表 2）
3. ドリップロスについては、区間の差が認められなかった。（表 3）
4. 肉色の変化については、区間の差が認められなかった。（表 4）

〔考察〕

今回の試験では、あえて TDN73%と高カロリーの飼料を給与したが、対照区においても、農家レベルで生じた肉色の濃いものや締まりのないものは出現しなかった。肉色については、遺伝的要因が強いとも言われており、今回の添加物試験では意図した結果が得られなかった。また、例数も少ないので、これだけで結論をだせないが、さきの課題の究明については今後様々な角度からの追求が必要である。

さいわいなことに、農家レベルでの肉色の濃く出る課題については、TDN70%の餌に切り替えて以降、それ程問題になっていない。